

北足立北部退職校長会
会員だより

第 44 号

発行責任者 秋池 功
印刷所 吉野印刷

コロナ禍でも活動する退職校長会

会長 秋池 功

令和四年九月十三日鴻巣班(北本・鴻巣吹上)の退職校長会が鴻巣市小谷地区(旧吹上町)の歴史散歩研修会を行いました。この日は、まだ残暑も厳しく約二時間でしたが、皆さん汗をかきながらの研修でした。しかし、久しぶりに堤防から小谷城・寺跡等を眺めたり地域内の歴史遺産を歩いたりし、心地よかったです。

研修では、企画運営の方々をはじめ、私たち同様高齢者の観光ガイドさんや小谷地域の方々も熱心かつ親切に対応していただき感謝、感謝でした。研修会終了後、三人で昼食をしながらゆつくと語ったのも楽しいひと時でした。令和元年度からコロナ感染の影響で、ほとんどの諸行事が中止となってきました。しかし、北足立北部退職校長会も今年度は、実施する方向で計画を立て、旅行では、委員長が、下見までしました。中止になったのは、コロナ感染拡大中のためやむを得なかったと思います。彩の国教育推進協議会では、委員長を

中心にいろいろ苦心しながら参加人数等工夫して実施することができました。広報では、諸行事の報告掲載が少ない中、委員長はじめ役員で創意工夫してよりよい記事発行に努力してきました。また、庶務担当は、配布物の区分けや会議に向けての会場確保、幹事は、理事会等会議の資料作りや印刷等。そして、会計担当は、会議ごとに旅費を用意していただきました。

コロナ禍で、表だった活動は少なかつた二年間でしたが、副会長をはじめ役員、会員の方々の意欲的な活動と協力により、有意義に任務を遂行することが出来ていることに、感謝しています。教諭時代に研究授業を引き受ける方は、なかなか少ないものでした。しかし、多くの同僚が授業を行なった後、苦労したがやって良かったと語っていたのが印象的でした。退職校長会もそれぞれが諸活動を行なってみるとそれなりに自分自身や組織にも効果が還元されるものと思っています。

感動の瞬間

副会長 松田 康 秀

九月に敬老祝賀会の案内が来ました。感謝の気持ちとそのような年齢になったのかという実感が湧きました。

今は時間がたつぷりあります。寝ただけで寝ることも、高級なものを除けば好きなものを食べたいだけ食べることもテレビを見たいだけ見ることもできます。しかし、寝てばかりいては眠れなくなりそうです。気持ちよく眠るためには、朝早く起きて散歩など運動をしなければなりません。食べたいだけ食べると、メタボになったり、糖尿病が悪化したりして病気が付きまといまいます。健康を保つためには栄養のバランスを考えて食事を適量にする必要があります。テレビを見続けていてもだるくなり見たくもなくなります。

幸せな感動の瞬間は何かに向かって没頭している時、ただけのように思います。その感動は成し遂げた瞬間までです。

最近、宇宙や人体の不思議関係を知りたくてテレビ番組を録画してまとめようと思います。過去に旧東海道を歩いたことがあります。その時も同様に感じていました。

小さなことでも何かに向かって積極的に活動している時こそが幸せな感動の瞬間ではないでしょうか。

日本百名城完全制覇のために

副会長 塩原 博

第二の人生を有意義に過ごし、退職して得た余暇の活用のため、百名城のスタンプラリーを計画した。日本城郭協会が平成十八年二月十三日に選定し発表した百名城は、四月六日の「城の日」に名城認定書が名城に渡された。

百名城の認定には、四十七都道府県の全てに一城以上五城以下で選定するという条件が必要であった。そのため十六道府県に一城ずつ、十八都府県に二城ずつが、七県に三城、三県に四城と五城が選定され、百名城は日本全国に散らばって存在することとなった。さらに名城に必要な三基準が設定された。

- ① 優れた文化財・史跡であること
- ② 著名な歴史の舞台であること
- ③ 時代・地域の代表であること

百名城は城地種類によって山城が二十四城、平山城が四十七城、平城が二十九城に分類され、主な遺構が保存されている。特に天守閣が築城当時から現存され国宝になっている五城(姫路城・松本城・彦根城・松江城・犬山城)は百名城の顔といえるべき価値のある是非、登城すべき城である。平成二十七年四月三日に百名城巡りを始めて九十七城の登城を達成したが、残り三城が未登城であるので、今年中にスタンプラリーを達成したいと思っている。

北足立北部だより

高橋 俊男

◇北足立北部定期総会↓中止

令和四年度総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、令和三年三月二十六日の理事会により中止とされ、令和四年度総会における事業報告、決算報告、予算案は同理事会で承認されている。五月七日(土)吹上生涯学習センターにて臨時正副会長・幹事会を行い、令和四年度の事業について協議した。

○正・副会長以下の役員

- ・ 会長 秋池 功
 - ・ 副会長 塩原 博(鴻巣班)・松田康秀(上尾班)
 - ・ 幹事 (長) 高橋俊男、(会計) 海野正、(庶務) 田所章、(委員長) 町田哲夫、井関由美夫、青木一弥、福田安孝(上尾班幹事長)、奈良高男(鴻巣班幹事長)
 - ・ 監事 村尾章平、青木 清
 - ・ 理事 各委員会名簿に表記
- 第一回正副会長・幹事会
- 第一回理事会・委員会
- 六月四日(土)吹上生涯学習センター視聴覚室
- 議題一 本年度の事業計画の具体化
- 二 予算執行について
- 三 各委員会の活動内容と分担について

○臨時正副会長・幹事会

八月九日(火)吹上生涯学習センターにおいて、『彩の国教育推進協議会』開催について協議し、今年度は実施する方向で結論づけた。

○第二回正副会長・幹事会

○第二回理事会・委員会

九月十日(土)吹上生涯学習センター視聴覚室

議題一 本年度事業の進捗状況

- 二 令和五年度役員選定について
- 三 各委員会の活動状況について

○会報委員会

(長) 青木一弥・堀越洋子・荒井智・落合啓志・松本光男・青木慶一・加藤幸弘

会員だより第四十四号の発行に向けて企画・編集等。

○懇親旅行委員会

(長) 井関由美夫・山口秀之助・茂木京子・島田研吾・荒井秀昭・高野和夫・堀 守雄

今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症防止のため中止。

○教育推進委員会

(長) 町田哲夫・菅田 泉・飯塚睦・田代孝治・高荷國男・小林三智雄・中村敏男

十月二十五日(火)「彩の国教育の日」協賛現職・退職校長教育推進協議会を開催。

上尾班だより

福田 安孝

○定期総会

令和四年度の定期総会は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。規約第十条「緊急の場合、理事会をもって総会に代える」を適用し、三月十二日(土)理事会にて決定した。

なお、本年度より文書配布の効率化と負担軽減のため配布回数とルートを変更した。役員の会議も精選した。

○令和四年度事業状況

①新会員は五名、会員総計は百十六名。(十月一日現在)

②会員だより(あおい)第二十九号を七月に発行した。「会報三十号」は令和五年三月に発行する予定である。

③班内の退職校長と上尾市現職校長との懇話会は、七月に予定したが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年度も中止にした。

④班内の小中学校長に、学校をさまざまに立場で支援するため通学区域在住の退職校長名簿を八月配布した。

⑤会員研修は、日帰り研修を計画していたが、これも新型コロナウイルス感染症拡大により見通しが立たない状況のため、八月六日(土)の理事会にて、本年度も中止とした。

⑥同好会は、彩光会(写真)が撮影会や写真展を工夫し活動している。

鴻巣班だより

奈良 高男

○定期総会

四月九日(土)鴻巣市笠原公民館で開催予定であったが、今年度も新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止とした。同日、総会に代えて、臨時新旧役員会を開催し、事業の決定及び引き継ぎを行った。今年度も総会議案表決書を提出していただき決定した。

本年度、喜寿を迎えられた五名の会員の方々に、お祝い金を贈呈し祝意を表す。また、米寿は五名、傘寿は三名の方々が祝賀を迎えられた。

○令和四年度事業の状況

①新会員は六名、会員総数は百二十七名である。

②第一回役員会

六月十一日(土)鴻巣市笠原公民館にて開催した。埼玉県・北足立北部退職校長会の報告や鴻巣班の会員研修会等について話し合われた。

③会員研修会

鴻巣地区が担当した。九月十三日(火)「荒川・自然と生きる小谷(旧吹上町)を歩く」と題し歴史散歩研修会を実施した。観光ボランティア鴻巣方イド会の皆さんのご協力を得て、約二時間の歴史散策を参加者二十名で楽しんだ。

④第二回役員会

令和五年二月に実施予定